

2020年度

## 社会情報学部小論文問題

(帰国生・社会人入試)

### 注意事項

- 1 試験開始の合図があるまでは、この冊子を開いてはいけません。
- 2 問題冊子と解答用紙は以下のとおりです。
  - (1) 問題冊子・・・・・・・・・・4ページ
  - (2) 解答用紙・・・・・・・・・・2枚
  - (3) 下書用紙・・・・・・・・・・2枚
- 3 試験開始後、問題冊子及び解答用紙に、落丁、乱丁、印刷不鮮明の箇所があった場合には申し出てください。
- 4 解答は、指定の解答用紙に記入してください。
- 5 解答用紙の所定の欄に氏名と受験番号を必ず記入してください。
- 6 試験時間中、解答した解答用紙を脇に置く場合は、不正行為防止のため解答用紙を裏返して置いてください。
- 7 解答用紙はすべて回収します。問題冊子と下書用紙は持ち帰ってください。

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

近年世界各地で見られるようになったポピュリズムの<sup>まんえん</sup>蔓延から正統と異端の問題を考えておこう。もし「正統」が大多数の人びとの意見と同義なのだとすれば、ポピュリズムは現代民主主義の「正統」なのだろうか。もし「大衆迎合」という意味の悪しきポピュリズムが「異端」なら、民主主義は異端に乗っ取られてしまった、ということなのだろうか。あるいは、ポピュリズムを悪者扱いするこうした見方こそ浅薄で、大手メディアや既成権力といった体制側の有権者蔑視を露呈するものなのだろうか。

「ポピュリズム」を定義するのは難しい。ポピュリストには右も左もあり、保守派も進歩派もあり、国粋主義者もいれば社会主義者もいて、どのような定義をするにしても、それらすべてを一つの定義のもとに包摂することはできないからである。そして、まさにこの点にポピュリズムの固有な特徴がある。ジョージア大学の政治学者カス・ミュデによると、ポピュリズムにはそもそもイデオロギー的な理念の厚みが存在しない。従来のイデオロギーは、全体主義にせよ共産主義にせよ、政治や経済から文化や芸術まで、社会全体のあるべき姿を描き出そうとしたものである。

だが、ポピュリズムはそのような全体的な将来構想をもたない。あるのはただ、「雇用」「移民」「テロ」など、その時点でその社会がもつ特定の政治的アジェンダに限定した語りかけの言説である。だからポピュリストは、あれこれの不特定イデオロギーに仮託して世界観的な厚みの欠如を繕<sup>つくろ</sup>おうとするのである。当然ながら、その結びつきに方向性や一貫性があるわけではないので、借用物は時と場合に応じて自由に変幻することになる。ポピュリズムを理解することが難しいのは、この<sup>ゆうずうむげ</sup>融通無碍な性格のゆえである。

ポピュリズムの蔓延が社会を分断する結果になるのも、同じ理屈からである。ポピュリストは社会に多面的な価値が存在することを認めない。特定の狭い政治的アジェンダに対する賛成か反対かで有権者を二分し、そこに道徳的な善と悪を明快に割り振る。投票による過半数を握った時点で、彼らは全国民の代表者となり、民主主義の正統性をまとった善の体現者であることになる。すると、これに反対する者は、すべて不道徳で腐敗した既存勢力であり、国民の敵と見なされるようになる。トルコのエルドアン大統領の発言に、「われわれは人民だ。あんたはいったい誰だ」( We are the people. Who are you? ) というのがあるが、まさにポ

ポピュリズムの名台詞である。このように全体を僭称<sup>せんしょう</sup>することが、異端の特徴である。

しかし、成熟した民主的な社会にあっては、人びとの価値観は多様であり得る。一つの論点については賛成でも、別の論点については反対、という重層的な判断がビッグデータのように幾重にも集積してはじめて、社会の共通意志<sup>そんたく</sup>を付度することができるようになるのである。現代の投票制度は、そこまできめ細かく民意を問うようにはできていないので、いったん政権の座に就いた者はフリーハンドを得たことになる。

一つの社会に複数の中心を置いて権力を分散させ、特定の集団が覇権を握らないように配慮するのは、多元主義が培ってきた知恵である。こうしたチェック&バランスも、ポピュリストには鬱陶<sup>うっとう</sup>しいだけである。自分は人びとの全面的な支持を得て善を行おうとしているのに、その自分の手を縛る不当な制約だ、と映るからである。

常識的な抑制や均衡に対するこうした反発は、しばしば反知性主義と一体になって表現される。どちらも、既成の権力や体制派のエリートに対する大衆の反感<sup>てこ</sup>を梃子にした勢力だからである。そのためポピュリストは、服装から言葉遣いに至るまで、あくまでも自分が専門家集団の外部に立つアマチュアであることを強調する。序章で見たとおり、プロの政治家はみな腐敗した権力構造の虜で既得権益を守ろうとするが、素朴な民衆はいつも騙されて搾取される被害者だ、そして自分こそそういう民衆全体の利益代表者だ、という設定である。

ポピュリズムが容易に権威主義へと転じ、野党やメディアや司法といった批判的機能を封殺しようとするのも、全体性主張の論理からして当然の道理である。イタリアのベルルスコーニ元首相は、選挙で選ばれていない裁判官が「赤い法服」(左翼主義)を纏<sup>まと</sup>って自分の邪魔をする、という批判を繰り返した。発足したばかりのトランプ政権も、特定宗教を狙い撃ちにした入国禁止の大統領令を出し、連邦裁判所がそれを差し止めると、裁判官への侮蔑や司法の独立に対する不満を露わにした。

ポピュリストは、たとえぎりぎりの過半数であっても、ひとたび権力を掌握すると、あとは有権者をすべて「サイレント・マジョリティ」と見なして自己への同調者に算入する。そうすると、自分は国民の声を代弁する存在となるから、反対者をまさに民主主義の名において圧倒することができるようになるのである。これは前世紀前半を覆った全体主義の歴史においても、あるいは今世紀の欧州や中南米においても見られる、ポピュリストに共通の手法である。部分が全体を僭称するとき、暴走を制御するはずの内部規範は無力化され、排外主義が人

びとを支配するようになる。

ちなみに、「サイレント・マジョリティ」は、ニクソン大統領が「ベトナム反戦運動などの面倒な政府批判に加わらず、静かに自分を支持してくれている人びと」という意味で使った言葉である。トランプ大統領にとっては、体面を気にして表に出てこない自分の支持者たちを意味していた。もちろん、それらの人びとが実際に何を考え誰を支持しているかを知るすべはないので、政治家には使い勝手のよい言葉である。

だが、ポピュリズムの蔓延を理解するには、こうした政治制度の面だけでなく、そこに表出された人びとの主観的な熱情を理解する必要がある。なぜ良識ある普通の市民が、いともたやすくポピュリズムの波にさらわれてしまうのか。この疑問は、ポピュリズムを単に強烈な指導者に踊らされた大衆の一時的な反動として片付けている限り、解くことができない。

ポピュリズムのもつ熱情は、本質的には宗教的な熱情と同根である。社会的な不正義の是正を求める人びとは、かつては教会や寺院などの宗教的な組織にその集団的な表現経路を見いだしていた。既成宗教が弱体化して人びとの発言を集約する機能をもたなくなった今日、その情熱の排出に代替的な手段を与えているのがポピュリズムなのである。この点で、ポピュリズムは反知性主義と同じく、宗教なき時代に興隆する代替宗教の一樣態である。

ポピュリズムの宗教的な性格は、その善悪二元論にも明らかである。政治は本来、妥協と調整の世界である。一方的な善の体现者もいなければ、一方的な悪の体现者もない。しかし、ひとたび全国民の「声なき声」を代弁する立場を襲うと、彼らの闘争には「悪に対する善の闘争」という宇宙論的な意義が付与され、にわかに宗教的な二元論の様相を帯びる。だからポピュリストの発言は、妥協を許さない「あれかこれか」の原理主義へと転化しやすいのである。

市井しせいの人びともこれを歓迎する。善悪二元論的な世界理解は、日頃抱いている不満や怒りを、たとえ争点とは事実上無関係であっても、そこに集約させてぶつけることができるからである。それによって人びとは、自分にも意義ある主体的な世界参加の道が開かれていることを実感する。つまり、ポピュリズムは一般市民に「正統性」の意識を抱かせ、それを堪能する機会を与えているのである。人びとは、匿名であるままに、みずからを安全な立場に置いた上で、この正統性意識を堪能することができる。

民主主義という概念は、本来いくつもの要素で構成されている。多数決原理はそのうちの一つにすぎず、投票による民意は時代を超えたより大きな多数者を代弁することができない。つまり、「多数者」といえどもやはり全体ではなく部分である。統治者は、全国民の排他的な

代弁者ではない。したがってその統治は道徳的な闘争ではなく、統治者への反対も不道徳ではない。このことを忘却して部分が全体を僭称するとき、正統性は内側から<sup>むしろ</sup>蝕まれる。

出典：森本あんり『異端の時代 — 正統のかたちを求めて』(2018年 岩波新書)

(出題の都合上、原文の表記を変更した箇所がある)

アジェンダ：行動計画のこと。

仮託：かこつけること。口実にすること。

融通無碍：考え方や行動が何物にもとらわれないこと。

市井の人びと：一般市民。

僭称：身分や実力を超えた称号を勝手に名乗ること。

問1 作者の述べるポピュリズムが蔓延する理由をまとめなさい。(400字程度)

問2 ネット上での炎上の事例を挙げ、それを作者の述べるポピュリズムの観点から解釈し、論じなさい。(600字程度)